学びやタイムスリップ

㉖ 校舎と桜の木（昭和時代）

住民らの笑顔に包まれ

京都の街中では、まだたくさんの元小学校校舎を見ることができます。それらの元学校の多くは、地域の力によってつくられ運営されてきた番組小学校をルーツにもちます。

中でも、京都国際マンガミュージアムとなった元龍池小（中京区）、京都芸術センターとなった元明倫小（中京区）が有名です。

さらに近年、京都市学校歴史博物館となった元開智小（下京区）、立誠シネマなどの複合施設となった元立誠小（中京区）も、名が知られるようになってきました。２０１４（平成26）年度は、学校歴史博物館が開館16年目で過去最高の来館者数を記録し、立誠シネマではほぼ休み無く多くの映画が上演されました。

学校歴史博物館の入り口には、１９０１（明治34）年に高麗門の様式を取り入れて造られた門が健在です。その両サイドには１９１８（大正７）年築の石塀が、あたかもお城を囲むかのようにどっしりと構えています。

さらに、１９３８（昭和13）年完成の鉄筋校舎の玄関には、木造の車寄せ（玄関前に人力車をつけて雨を防ぐための建物）がついています。この車寄せは、元成徳小（戦後に成徳中、下京区）の１８７５（明治８）年に造られた玄関車寄せを移築したもので、市内では現存最古の小学校建築です。この三つの建築物は国の登録有形文化財であり、学校歴史博物館は建物全体が一見の価値のある博物館となっています。

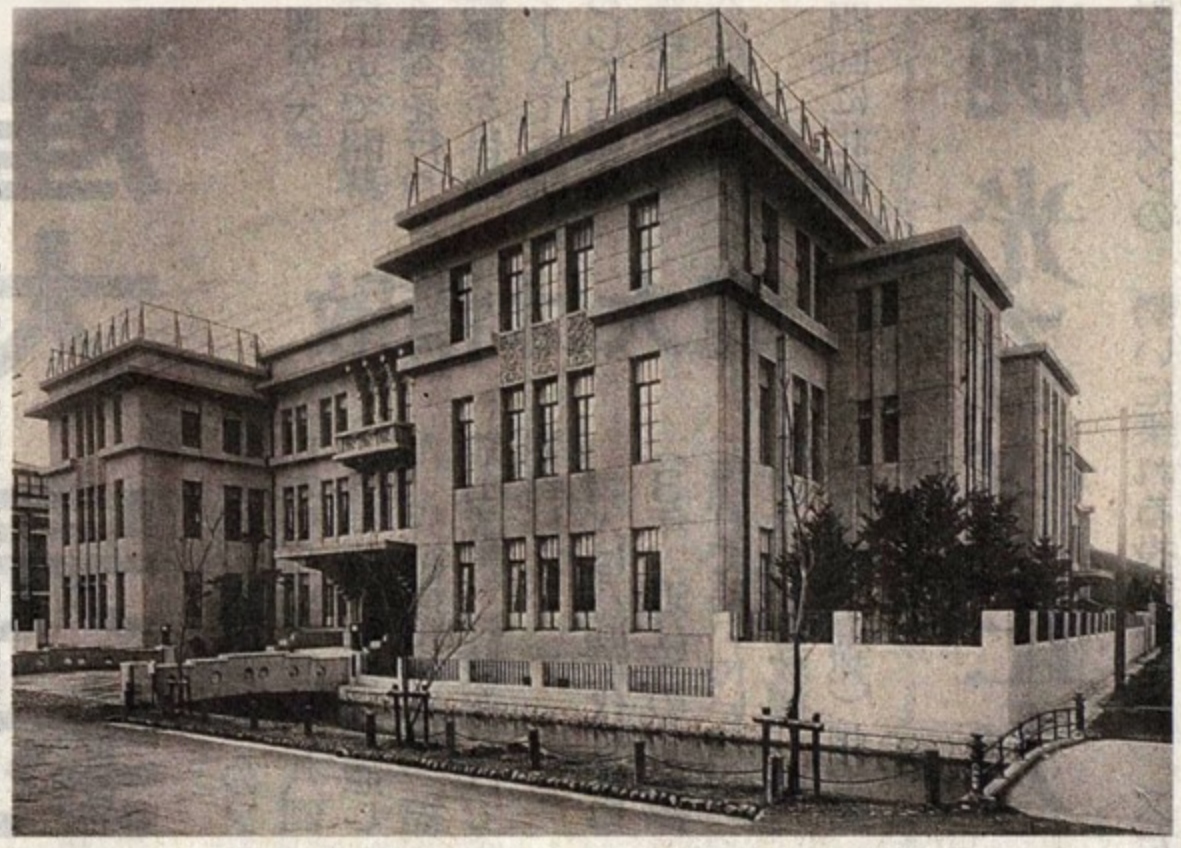
元立誠小は、運動場に駐輪場をつくり、教室をシアターや文化的事業の展示場として生まれ変わらせるなど、地元の取り組みにより「元学校」の新しいあり方として注目されています。校舎は、旧校地の売却金や学区での積立金・寄付金・家屋税などで建てられ１９２７（昭和２）年12月に完成、校舎の前には記念の桜が植樹されました（写真①）。ネオロマネスク様式の美しい三連アーチの意匠をこらし、市内で初めての校内プールが備えられるなど最新設備も導入されました。

１９９３（平成５）年３月に小学校としての役割を終えた後は、地元の人たちや観光客を見守り続け、校舎とともに時を歩んできた桜の木は今年も満開を迎えました（写真②）。元立誠小は、この記事が掲載される５日は前日に続き、第29回高瀬川「桜まつり」の会場になっています。子どもたちを見守り続けてきた校舎と桜の木は、きっと今日もたくさんの笑顔に包まれていることでしょう。

（京都市学校歴史博物館学芸員　和崎光太郎）

◇

今回紹介した学校建築については、学校歴史博物館の常設展示室でパネル展示が見られます。（水曜休館）。



写真①完成当時の立誠小の校舎（『新築竣工記念写真帖』より）

写真②見頃を迎えた元立誠小前の桜（３月31日）